


要領様式第2号


出張報告届

令和元年8月13日


吹田市議会議長様

会派名 民主・立憲フォーラム

出張者氏名 山本 力 

川本 均 

木村 裕 

西岡 友和 








下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	8/7 熊本市 8/8 TKP ガーデンシティ熊本		
期間	令和元年8月7日から8月8日まで2日間		
出張の成果	別紙のとおり		
備考		認	会派代表者
		印	



民主・立憲フォーラム 視察報告書

(山本 力、木村 裕、川本 均、西岡 友和)

1、 令和元年8月7日 熊本市視察 (熊本市議会議会棟)

●熊本市災害復興計画(平成28年10月)の進捗状況と今後の予定について、熊本市政策局復興総室 副室長 内田 律氏から説明を受けました。以下は説明の概要です。

熊本市災害復興計画の重要なコンセプトとしては2点あるように受け止めました1点目は・・・平成28年4月14日・16日に発生した平成28年熊本地震の復興計画(平成28年10月策定)を熊本市第7次総合計画(平成28年度～35年度)の前期基本計画の中核に位置付けたこと。この復興計画の期間を平成28年度から4年間としたこと。ただし平成32年度以降も復興には取り組んでいく。

2点目は・・・復興重点プロジェクト(5点)を設定したこと。・・・①一人一人の暮らしを支えるプロジェクト・・・ワンストップでの相談窓口の設置、仮設住宅入居者への生活支援(※各区役所に看護師1名配置して見守り実施)②市民の命を守る「熊本市民病院」再生プロジェクト③熊本のシンボル「熊本城」復旧プロジェクト④新たな熊本の経済成長をけん引するプロジェクト⑤震災の記憶を次世代へつなぐプロジェクトの5点で、

市民病院と熊本城について具体名を示していることは内外に明確にアピールする意味合いがあるようである。

復興計画の進捗状況については、市議会には毎定例会ごとに市長から報告がなされている。

視察の感想・・・熊本市としてはこれまでに経験したことのない震災に対する復興についてまず初期の4年間で最大限の復興の取り組みを進めていくための、市の最重要課題として取組まれていることが印象的であります。

●災害時の議会対応について（平成28年熊本地震）

熊本市議会事務局から説明を受けた。内容は以下の通り。

議員の安否確認をまず行った。

避難所が市内で不足する状況もあったことから、議会棟の一部を一時避難所として開設した。

熊本市議会議員からの要望等は議会事務局で取りまとめて関係課に伝えた。

○6月10日に「熊本地震からの復旧・復興に関する調査特別委員会」を設置

○9月6日に「熊本市議会災害対策会議」設置要綱を制定。

今般の熊本市議会視察の感想・・・この地震被害が議会棟にまで及んだこと。議会棟一部が避難場所になったことで議会職員も対応したことなどで、議会の機能まで影響を受けたことは大変だったと思います。2元代表制の下では災害時直後には市議会の行える具体的な災害対策事務事業は限られているという印象を受けました。市議会事務局が行政執行部、市長部局からの報告を的確に受け、総合的な情報把握に努めることがまず、必要であると感じました。また、当然のことだと思いますが、災害復興のための国、県などからの支援、補助金交付の要請に市議会として取組むことが重要な責務であるということも認識しました。

2、「自治体財政集中講座 in 熊本」を受講しました。日時令和元年8月8日、場所TKPガーデンシティ熊本、講師・川本達志先生（元・廿日市市副市長、自治体経営コンサルタント）

①財政比較分析の仕方1（10：00～12：30）

地方自治体における一般的な財政運営のありかたについて基本の解説をしていただきました。また、吹田市の財政状況について普通会計、企業会計、各特別会計あわせた総合的な評価をしていただきました。

②財政比較分析の仕方2（14：00～16：30）

財政分析の目的について、多角的に行うことの必要性を述べられた。

そして、議員がまず財政分析を理解し、未来の住民の視点で街づくりをかたっていくことが必要であるとの持論を強調されていました。

●「自治体財政集中講座 in 熊本」を受講しての感想

通常、財政分析ということについては、意識せず、市議会での予算審議に臨んでいることが多いが、今般の自治体財政集中講座により、財政の適正化を意識することが大切であることを認識しました。また、あらためて、将来的な視点をもった健全財政ということについても当然ですが、重要であるように受け止めました。